

# 平成26年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成26年6月20日（金）

午後6時～午後8時55分

場 所：弘前市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 島委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、齋藤（き）委員、  
西川委員、小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、  
工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員 ※1名欠席  
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度  
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度  
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

### 【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている

実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

#### 【審査採点】

区 分	評 価
審査項目に合致している	10点
やや、審査項目に合致していない部分がある	5点
審査項目に合致していない	0点

#### 【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

#### 《審査内容》

##### ●23：岩木山トレイルランニングフェスティバル2014（第一回）

岩木山トレイルランニング実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：トレイルランニングで短命県返上に繋げたいということだが、普段運動していない人を巻き込むために何か工夫はあるか。

A：大会前だけでなく、大会が終わってから雪が降るまでの間も、継続的に情報を発信して、練習会・講習会を継続していくことを計画している。

Q：現時点で、地元からの参加者はどのくらいか。また、どのような年齢層が応募してきているか。

A：県内が150人、県外が50人くらいで、東京、大阪からの申し込みもある。マラソンも同じだが、30代から50代を中心に応募がある。

Q：この事業が弘前で開催されることは、青森県内で初めてか。

A：今年5月に三戸の名久井岳で、100名程度で行っている。津軽地区では弘前が初めてになる。

Q：最終的には観光コンテンツの一つとして打ち出していくという事で、スポーツツーリズムの推進について、具体的に今後どのような展開をしていくのか。

A：前日から受付して前夜祭を行ったりすることで、単純に宿泊してもらうのではなく、津軽三味線の野外演奏行ったり、地元の良さを伝えるような催しを用意し、参加者からの口コミで、更に多くの方に来てもらいたい。レースだけに参加し帰るのではなく、長く弘前にいてもらえるような仕掛けを考えたい。

### 【主な意見】

- ・弘前の方は岩木山が好きだということが表面に出ていると思う。一方で、岩木山のゴミがなかなか減らない問題もあり、このような岩木山を使った事業を季節毎にどんどん投入していくことが、ゴミの投棄に対する抑止力につながり、観光以外の部分にも効果として出てくるのではないかと思う。
- ・弘前市は観光の面など、いろいろな面から育てていくことが大事なので、全く新しい取り組みとして、是非成功させていただきたい。
- ・年配の方は、あまり外に出る機会がないと思うので、高齢者が自然に出ることができるような取り組みをしていただきたい。
- ・第1回目という事で、これから事業を育てていくうえで、危険性のないところであれば、小さな子どもも参加できるように、親子連れでゆっくり歩けるような企画もあればもっと楽しいものになると思う。

### 【採択結果】

合計点 80.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.1
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		80.0

### ● 20：伝統文化を身近に「津軽音広場」／津軽の音実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：今年子どもを対象として、いずれは上級クラスを設けるということだが、大人を対象にすることは考えているか。

A：裾野を広げるために、まずは子どもや学生の体験の場という事で計画している。体験学習後に成果発表を行い、多くの市民の方たちにも鑑賞というかたちで参加してもらおう。来年度以降は、一般市民の方も体験ができるような内容を考えていきたい。

Q：尺八や太鼓などの津軽独自の流派や技を、事業の中に更に取り入れていくことは考えられるか。

A：参加者に体験してもらうときに、講師であるとか、楽器を準備することが難しいという問題があり、今回行う内容は、そういった問題をクリアできたものだけになる。今後は、もっとジャンルを増やして内容を充実させていきたい。

Q：民謡やまつり囃子には太鼓が必ずあり、子どもたちも太鼓がすごく好きなので、音広場にもぜひ太鼓を取り入れてもらいたいと思うが、団体としてはどのように考えているか。

A：太鼓は、子どもたちが気軽に参加できるという大変いい要素もあるが、体験してもらうための太鼓を確保することが難しい。太鼓は、貸し出しとなると笛のように気軽にはいかない点もあるが、小さい子たちは太鼓が好きなので、太鼓を確保できれば、ジャンルの一つとして入れていきたいと思う。

Q：「津軽弁」文化体験後の成果は、どのように考えているのか。

A：体験してもらうジャンルの中で一番異色だが、前回の津軽の音コンサートの中でも津軽弁を一つの音として捉え、津軽の一つの重要な文化だということ認識している。津軽弁の単語の意味を示すだけでは興味を引くことはできないので、自分で話してみることで、何かを表現でき、その地域の文化に溶け込んでいけるようなテーマを探したいと思っている。例えば成果発表の場で寸劇でも良いし、何か課題を与えて参加者で競うことなども考えている。

#### 【主な意見】

- ・学校では教わることができない文化を補完的に伝承していく事業だと感じた。すそ野広げていく活動を続ける中で、太鼓など、地域に伝えていくものがさらに増えて行けばなお良いと思う。
- ・小さな子どもたちは、津軽弁がわからなかったりするので、「津軽弁」を文化として大事にすることを、ぜひ続けてほしい。
- ・それぞれの内容でターゲットを決めており、すそ野を広げるという目的もしっかりしている。市民が手作りで行う事業としてぜひ応援したい。

#### 【採択結果】

合計点 84.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		84.6

● 14：住吉針桐を天然記念物に！「住吉ハリギリ祭り」／住吉町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：「ハリギリ」という木について教えていただきたい。

A：タラの芽がとれる「タラの木」と同じようなもの（ウコギ科）でハリギリがある。樹齢200年以上というのはすごいと思い、文献のようなものを探しているが、まだ見つかっていない。

Q：素晴らしいハリギリなので、天然記念物に申請して、住吉町会だけでなく市全体の活性化にぜひ繋げて欲しいと思うが、町会ではどのように考えているか。

A：ハリギリの木が天然記念物になることを目指し、じっくり考えていこうということで、ハリギリが正面から見えるよう見守り地蔵尊を移築しているところである。現時点で青森県には、国の天然記念物は深浦の大銀杏だけであり、時間がかかるかもしれないが、ハリギリを第2号にできるよう頑張っってやっていきたい。

【主な意見】

- ・木を残していくことと同時に、ハリギリには住吉町会あるいは高杉地区の絆、シンボルとしての役割があり、地域の住民が安らげる、結集する場所なので、その場所に関わっていく取り組みについて、資料にも残していただきたい。
- ・高杉には南貞院、鬼沢は鬼神社と周辺地域にも有名な場所があるので、周辺を巻き込み、地域おこしのようなかたちで活性化を図っていただきたい。
- ・近くの町会にもぜひ宣伝して足を運んでもらい、これからの町会活性化、地域の活性化、ひいては市の活性化へ、ぜひとも繋げていただきたい。

【採択結果】

合計点 88.2 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合 計		88.2

● 22 : PECS ロゴステッカーを拡散して、ASD の方の外出を推進するプロジェクト

(略称 : PECS ロゴステッカー拡散プロジェクト) / あおもり PECS 研究会弘前支部

【質疑応答 (抜粋)】

Q : この事業については、弘前型と言えるようなものができるまで継続して欲しいと思うが、来年度以降は協賛金等の収入だけで継続することが可能か。

A : 弘前が一番最初にスタートした事業なので、将来的には、補助金に頼らず継続できるということを形にしていきたい。

Q : 去年の参加店舗が 6 店舗だが、どのくらいまで増える可能性があるか。

A : 今回の目標は 30 店舗。

Q : 昨年参加した子どもたちは、どのような様子だったか。

A : 楽しかった、もう一度行きたいという事を言葉で表現することはできないが、土手町に行くことを知ると、楽しみにしていることを態度で表していた。

Q : 去年の様子を見ると、お店の方からの返答がうまく伝わっていないが、視覚で訴える工夫など、コミュニケーションがうまく取れるような工夫はあるか。

A : 商品の代金を支払う場面で難しさがあったため、比較的小金の概念がない人でも買い物ができるように、使える限度が決まっているチャージができるプリペイド方式を取り入れられればと考えている。

【主な意見】

- ・店側をどういうふうに組織化していくかというところが重要で、店側のほうの主体性が見えてくるようになれば、街のクオリティが上がり、そういった組織化が出来てきた、それが上手く回ってきたというところで一定の目途として独り立ちが出来てくると思う。
- ・この事業は、2年目、3年目、もしかすれば5年かかっても期間が足りないかもしれないし、それを後押しする行政の基盤がないのであれば、ここでサポートすべきことなのかかもしれない。1人でも多くの市民の理解につながれば、すごく良い街づくりの一つになると思う。
- ・目で見て認識できる方法として、聴覚障がいの方でも使えるような、スマホのアプリなどでやり取りできるツール開発まで今後頑張ってもらいたい。

【採択結果】

合計点 83.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.2
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.1
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合計		83.2

6月20日審査結果（26事業のうち4事業）

採択とする事業                    4事業  
 不採択とする事業                0事業

# 平成26年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成26年6月21日（土）  
午前9時30分～午後5時30分  
場 所：市役所新館2階 大会議室

出席者：審 査 委 員 檜 楨 委 員 長（事業番号15から出席）、鴻野委員（事業番号15から欠席）、  
齋藤（秀）委員、清藤委員（事業番号15から欠席）、  
齋藤（き）委員（事業番号2から出席）、西川委員、小友委員、  
高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、  
工藤委員（事業番号10から出席）、宮川委員（事業番号15から出席）、  
長内委員、小林委員 ※1名欠席  
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 6月20日に引き続き審査

### 《審査内容》

#### ●1：大開町会納涼祭り／大開町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：今年の事業で工夫する点として、高齢者の送迎を挙げていますが、何名くらいでどのように実施するのか。

A：町会の福祉部員と民生委員が主体となって、1人～2人暮らしの高齢者の家を訪問して、祭りについて説明しながら参加希望を取り、当日来ることができる人数を把握する。人数がわかったら、役員で手分けをしてそれぞれの自家用車で送迎する予定である。

Q：近隣町会からの参加も増えているということだが、このイベントに参加している近隣町会から負担金等はあるのか。

A：中には寸志ということで持ってくる人もいるが、「負担金」などはもらっていない。原価を割って販売しているので、参加者が集まれば集まるほど町会の持ち出しは増えるという悩みはあるが、はじめは50人程度だったのが300人参加してくれるようになったのも、継続してきた成果であり、そこから生まれる親睦がさまざまな活動につながるの、これからも継続していきたい。また、費用面については、あまりに安い価格で販売すると損失が増えるので、その点を防ぎながら進めていきたいと思う。

Q：祭りの開催を機会に、町会への加入促進に対する取り組みをすることは考えられるか。

A：町会の中でも若い世帯やアパート暮らしの人は、新たに町会に加入しないという現実

があるので、これまで町会では、町会活動等についてのパンフレットを作って配付してきた。転入転出が多い地域だが、町会未加入の人にも誘いをかけるように前向きに取り組んでいきたい。

### 【主な意見】

- ・町会の目的は、住民同士の親睦が中心で、そのほかに生活環境の維持や高齢者の見守り、防犯活動など多種多様にあるが、住民の価値観の多様化・ライフスタイルの変化などによって、あまり町会活動に関心を持たないという住民が増えている。そういった中、参加者を約300人集めることができるのはすごいことだと思う。
- ・夏祭りという手段を使って町会を活性化しようという町会がたくさん増えて、それを見習う町会も出てきて1人でも参加者が増えるという呼び水の役目はまだ必要であり、そのような行動を起こすことについて評価したいと思う。
- ・夏祭りなどで培われた親睦は、地区の子供たちの安全や防災訓練などにもつながる。一見打ち上げ花火のように見えるが、地域の人たちの関心を寄せるために安い金額での出店を行ったりするのはやむを得ないことだと思う。
- ・地域の祭りの申請は今まで何件かあったが、高齢者の送迎をするというのは今までなかったもので、注目している。普段引きこもりがちの人も迎えに行けば参加したいという人はいると思う。同じような問題を抱えている町会はあるとはずなので、良い前例になってほしい。
- ・高齢者の送迎は、祭りだけでなく、災害等があった時に要支援者の安否確認を行う仕組みづくりにつなげることができると思う。

### 【採択結果】

合計点 87.7 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.1
合計		87.7

● 3 : イルミネーション&ねふたロード整備事業／和徳町大通り町会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 和徳町の歴史を広報していくにあたって、和徳歴史探偵団との連携や意見のやり取りはしているのか。

A : 和徳歴史探偵団は和徳町大通り町会の青年部から生まれたものなので、和徳歴史探偵団と相談しながら、住民に歴史を知ってもらうための講習会・講演会を計画している。

Q : この事業を通して、地域の子どもたちや地域の人たちが自分の町会を誇りに思う気持ちを強めるということだと思うが、ほかの町会から問い合わせなどはあるか。

A : ほかの町会からも、良いことをやっているという声やどのように行ったのかという問い合わせはあった。1%システムを使っている旨も説明しているので、市民の方に関心を持ってもらい、市の活性化につながって欲しい。

Q : 地域住民の努力した結果がほかの地域に発信されていくような波及効果につながってほしい事業である。来年度申請する予定はないということだが、事業は続けていく予定か。

A : 補助金への申請は今回で終わるが、町会では事業を続けていく。これからも反省点を踏まえ、充実したものにしていきたい。

【主な意見】

- ・ 2年間でイルミネーションの設置をする費用を協力して欲しい、あとのメンテナンスは自分たちで行っていくという、いつまでも補助金に頼らない姿勢が素晴らしい。
- ・ 和徳は、申請事業に限らずさまざまなことに取り組んでいる。話題にのぼった和徳歴史探偵団など若い人たちも、土台である町会が元気だからこそ自由に活動ができるのだと思う。
- ・ 子どもたちにねふた灯籠の絵を描いてもらうことは、灯籠を作る作業と併せて行うことによって、通年ではないが、和徳小学校に通う子どもたちの放課後対策につなげることができるように感じた。

【採択結果】

合計点 95.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.1
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	10.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	10.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.5
合 計		95.0

● 10：エンジョイ・プレイセンター /青森県にプレイセンターを創る会

【質疑応答（抜粋）】

Q：構成員は10人だが、これまで事業を行ってきた際に、構成員以外のお母さんたちの援助を得てきているのか。また、申請事業の活動場所は小比内だが、今まで事業を行ってきた清水交流センターでの活動はこれまで通り行われるのか。

A：基本的にはほかの援助等は特になく、構成員だけで役割を分担しながらさまざまな活動をしてきた。今までの清水交流センターでの活動も引き続き行っていく。

Q：現時点では小さな活動であるので、公益性という点を審査するにあたって、このような事業を各町会などに広げていくための母体として活動するなど、今後の事業の発展性についての考えを教えてください。

A：事業の範囲としては、「この事業はとても公益的である」とは言えないかもしれないが、事業を実施することで親が力を付けていき、それを見た子どもたちが元気になるという意味で、今回の事業は波及していくと思う。

Q：活動の波及を意識して、団体として行っていることはあるか。

A：これまで清水交流センターでは午後2時30分から午後4時30分まで活動していたが、小学生の子どもがいる場合、下校時間と重なり、下に小さい子どもがいても参加できないということがあった。まずは、気軽に来てもらい、活動や遊び場の雰囲気を見て関心を持ってもらうことが必要だと思うので、小学生の子どもを持つ親でも気軽に参加できるように、申請事業では、夏休みの午前中に事業を企画している。

【主な意見】

- ・子育てに関する事業は、これまでもさまざまな種類のものが申請されてきているが、大人数を集めて行うような類の事業ではないので、公益性の点で引っかかってしまうのだと思うが、子育てしている側の選択肢が広がることはすごく大事なので、この経費（予算：約6万円）のできるのであれば、実施して欲しい。
- ・「特定の人たちに利益が限られる」とは、排除性が強くなることだと思う。この事業ではチラシを配り、参加者を募るので、決して他を排除しておらず、特定の者に利益が限られていないので、公益性はあると思う。
- ・小学校に入学したら昨年、今年と申請されている「アフタースクール事業」、就学前の子どもたちはプレイセンターといったように、理念は少し違うかもしれないが、コラボできるところをコラボすれば、場所の問題や地域の問題などが少しずつ解決できるのではないかと感じた。
- ・これまでの審査では、子育てに関する事業に対する評価が非常に厳しい面があった。本事業は、上から目線ではなく協働で子育てを行っているというところに可能性を感じていて、評価が高いのではないかと思う。
- ・子育ての分野は、これがベストだから全市に広がる、ということではなく、子育て中の親や子どもが自分たちに相性のいいところを見つけて活用していくのだと思う。範囲を広げていくことよりも、続けていくことを意識して活動していただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 88.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	10.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.6
合 計		88.8

#### ● 16. 高杉地区青少年コミュニティ会議 青少年コミュニティ事業

／高杉地区青少年コミュニティ会議

## 【質疑応答（抜粋）】

Q：高杉地区町会連合会の青少年育成委員会や交通安全委員会などとの連携について、どのように考えているか。

A：高杉地区町会連合会から、当団体に2名参加しており、連合会とのパイプ役になってもらっている。

Q：企画書を見ると、今まで行ってきた行事が盛り込まれているように感じるが、今まで補助金等を活用せずに行うことができたことを、今年補助金を使わなければならないのはなぜか。

A：今年から行う行事のほか、規模は異なるが今まで行ってきた行事も申請事業の中に入っている。経費、人の運用、学校と地域の連携ということを精査して申請している。

Q：いじめ防止のために小中学校連携で事業を行っていきたいということだが、スケジュールを見ると小学生のみ対象の事業なども組み込まれていて、「連携」になっていないように見える。具体的に、どのように連携する予定か。

A：教育委員会では、小中連携の事業を進めているが、昨年の成果発表を聞いた限りでは、学校の中で行う研修会や勉強会などが多いと感じた。そのため、子どもたちが一緒になって体験して何か実績を残すことで、自尊感情が高まるのではないかと思い、いろいろ体験できる行事を計画した。

Q：事業の目的は、いじめ対策とコミュニティ対策の2本柱であるが、スケジュールから窺えることはコミュニティ対策に対する比率が非常に強く見えた。例えば公民館まつりの中の意見発表や展示などで、みんなでいじめについて考えることはあるのか。

A：意見発表では、各小学校4～6年生から代表を一人ずつと、中学校1、2年生から代表を選び、将来の目標や協力して行動することの必要性など、さまざまなことを発表してもらう予定である。作品展示は小中学校のほかには児童館や保育所などが出品する。

Q：高杉小、自得小、北辰中の三校連携の取り組みのはずが、申請書類からは自得小が関わる取り組みが見えづらいので、どのような連携がなされるのかを聞かせてほしい。

A：裾野地区の自得小と、高杉地区の高杉小と、地区が異なる小学校の子どもたちが北辰中学校に進むため、調整が難しいのが現状である。スケジュールにある自得小の行事については、その日に自得小の方で重要な行事が入るとキャンセルになる可能性があり、承諾はもらっているが計画通りできるかはまだわからない。1年間で解決できることではないので、将来に向けて話しあっていきたい。

## 【主な意見】

- ・さまざまな行事を通して各学校の生徒が触れ合うことを通じ、小中学校の連携を強めていくという目的は理解する。しかし、目的を達成するためのスケジュール（事業企画書 No. 2）に検討する余地があるため、より精査していただきたい。
- ・1%システムは、やりたいけれども資金が足りなくてできないので、補助金が欲しいという事業に対して補助する制度だと思う。この事業については、使える補助金制度があるから、何か使えるものはないか、ということで計画されているように見える。事業の

組み立て方の順番が逆のように感じた。

**【採択結果】**

合計点 44.6 点 < 60.0 点

審査項目⑤ 計画や予算の具体性、事業の実施手段や体制の合理性 2.5 < 3.0

審査項目⑨ 事業の内容・規模に合った予算 2.1 < 3.0 ⇒不採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	4.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.0
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	2.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	5.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	2.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.3
合 計		44.6

● 11：甦れ、雑種地から交流農園へ／向外瀬町会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：町会からもかなり経費（約200万）を負担して、補助金額も50万円申請しているが、2年計画の事業を例えば3～4年の計画にして一部ずつ解決することはできないのか。

A：ずっと荒れ地を放置しておく、自動車が入ることができることもありごみを捨てていく人がいたり、生えてきた木が太くなっていったりと、ますます荒れた状態になるのでそういった状態を早く解決したい。そのために今年は土地の右半分を地域の人たちの農園に作り替える計画である。

Q：町会から予算が200万円だせるのであれば、土地にある残材等の処分・整地とその跡地の活用としての子どもたちの農園整備と、事業を2つに分けたほうがわかりやすい印象を受けたが、団体の考えを教えてください。

A：地域にある福祉会・保育園を運営しているが、近隣にある児童センター2館の指定管理を受けることになり、合計3施設の子どもたちと関わる事になった。福祉会では、土に親しみ作物を作る喜びを体験させるために、子ども農園を開設していたが、施設が3ヶ所になったため、今までの農園では手狭となっている。幸いにもこの荒れ地は、3施設の中

央付近に位置しているため、早急に整備して、子どもたちに使ってもらいたいと思っている。地域の人にも、この場所が農園として使われていることを知ってもらうことができれば、次年度以降の取り組みもしやすいのではないかとということで計画している。

Q：非常に大きな額を見積もられていて、町会の積立金を切り崩して事業を行うことになるが、町会では情報を共有化し、住民の理解は得られているのか。

A：この事業を行うことについては今年1月の総会で通っている。また、町会には資産管理委員会があり、委員の承認を得て決めた。確かに大変な費用がかかることだが、早くこの荒れ地をもとの状態に戻すことのほうが、町会として優先されるべきことだという判断である。

Q：この事業が進展していったら農園を開放するときに利用者を決める方法を教えていただきたい。

A：農園を貸し出しする対象は、北地区全体にしようと考えている。希望する人数が多ければ抽選で、1年ごとの更新になるかと思う。北地区町会連合会にもこの事業について話しており、農園を貸し出しできるようになったら、募集関係のことは北地区全体で協力して行っていくことになっている。

#### 【主な意見】

- ・町会費でまずは荒れ地を整地するところまでを実施してもらって、1%システムには整地した後の土地を子ども農園にして、地域の取り組み、子どもたちの育みを促すといったところだけを申請してきた方が、事業としてわかりやすいと思う。
- ・残材処理にかかる費用は補助対象外経費として申請されているので、申請通り土地の半分を今年整備してもらうことは可能だと思う。

#### 【採択結果】

合計点 62.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.0
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.1
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.3
合 計		62.9

● 15：栄町ふれあい夏まつり／栄町町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年の祭りから高齢者の参加を促していく予定とのことだが、高齢者の送迎にレンタカーを利用する理由を教えてください。

A：高齢者の方たちは会場まで来るのに億劫だろうということで、5～6人乗ることができ大きなバンをレンタルしようと考えている。町会の人たちの自家用車を使えるのではないかという意見があったが、借りた人に迷惑がかかる可能性もあるし、人数を多く乗せられる車を借りたほうがいいのではないかということで、レンタカーを借りることになった。

Q：従来の夏祭りは子どもを対象としていたのが、高齢者に対象を映すという大転換があるが、別の地域などでこのような先例があったのを見て自分たちもやってみようということになったのか。

A：町会の中でアイデアが出されて決まったことである。弘前はもっと賑やかなまちだったので、昔のような方向性で祭りを実施してみてもどうかという考えが一つ。もう一つは、地域の高齢者が不自由な生活をしているときに行政にお願いすれば楽かもしれないが、身近にいる町会にいる人たちで高齢者世帯に協力していくことが大事なのではないかという考えがあり、送迎して祭りに参加してもらえるような内容とした。

前回までは、高齢者というよりはまず小さな子どもと親を対象としていた。今回の話し合いで、栄町は高齢者も多いから高齢者のことを考える必要があるのではないかという話になり、高齢者を重要視することになった。今まであまり住民の目に触れなかった高齢者に参加してもらうことで、少しでも地域住民と交流を深めてもらえると思う。

【主な意見】

- ・栄町町会が高齢者が多く、個々の把握や送迎が難しいと思うが、町会が一体となって送迎するのは、大変素晴らしい取り組みだと思う。
- ・レンタカーの送迎でも、迎えに行くのは地域の人であり、タクシー等のようにすべてを任せるわけではないので、災害時に高齢者宅へ向かうシミュレーションやコミュニケーションの面では問題ないと思う。
- ・町会の夏祭りは、子どもたちを中心に行っている歴史があると思う。高齢者を主役にするのは、これからの町会の在り方を思わせるような大事な要素があるように感じるので、ぜひ成功させてもらい、他の地域にも広がってほしい。
- ・高齢者向けの祭りにするのであれば、高齢者が喜ぶような出演者やもてなしの工夫があればいいと思う。

#### 【採択結果】

合計点 80.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.0
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		80.5

#### ● 2 : 幼児から始めるリサイクル出前講座事業

／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q : 理系離れの解消などのために、科学教育や環境教育理科の教員が学校教育とは別に理科を教えていることがあるが、そのような理系の教員との連携することは考えられるか。

A : 昨年度、県で事業を行ったときにリサイクル出前講座の対象に小学生も入れてほしいと言われたが、小学校は年間行事が決まっていることもあり、事業実施期間である12月～2月に小学校では出前講座を行うことは難しかった。地区公民館でこのような講座を行っていただければいいと思う。

Q：市内24の幼稚園・保育園で実施する予定だが、参加してくれそうな見込や感触はあるのか。

A：昨年実際に講座を体験した子どもの保護者にアンケートを取ったが、その結果を見た人からは、やってみたいという声があった。

Q：特定の構成員のみが事業を実施していることにより、もっと多くの構成員と一緒に事業を実施していればかからないであろう軽トラックの借上げ料なども発生しているが、事業の継続性を確保することはできるか。

A：団体構成員が30～40代中心のため、日中仕事をしている。申請事業は教育事業なので、土・日曜日にだけ実施できるようになれば、もっと構成員も関わってくると思う。

### 【主な意見】

- ・申請事業の必要性は理解できるが、効果的に事業を実施できるような団体内の体制づくりと、継続して行えるような事業内容をしていただきたい。
- ・趣旨や内容から、とても応援したい事業である。しかし、これまで申請してきた事業は、不採択になったとしても団体で規模を縮小して実施するということがあったが、実施した結果やこれまでの事業の流れが見えてきていない。

### 【採択結果】

合計点 55.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	3.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	5.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	3.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.5
合計		55.5

● 21：手造り屋台村／小沢地区屋台村実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：地区の運動会の参加者が減少し、50年でやめることにしたという原因についてさまざま考えられると思うが、団体ではどのように考えているか。

A：子どもたちにも参加してもらっていたが、子どもたちが減っているうえに、走る人が減ってしまった。無理に参加してもらってケガをすると大変だということで、50年の節目でやめることにした。

Q：運動会に替わって行う行事を、手造り屋台村にしたきっかけを教えてください。

A：運動会では体を動かさなければならないということで抵抗がある人がいた。しかし、屋台村は、自分たちで収穫したものを売ったり、作ったものを食べてもらったり、子どもたちのために地区のみんなで行ってこうということになった。ほかにも魚の掴み取りや高齢者のための余興も手配している。採択にならなくても実施しようという意気込みである。

【主な意見】

- ・地元の夏祭りのような行事の中で、テーマを決めて取り組んでいることと、これまで地域にあった潜在的な能力をおもてに引き出すことができる事業で非常に良いと思う。
- ・普通の祭りは、役員が計画し、消防団や婦人部など地域の人たちに分担してさまざまな役割をしてもらおうと思うが、この屋台村では、町会の中から屋台を出す人を募集している。屋台を出すにも一人ではできないので家族や友人とグループを作ることになり、町会の仕組みの中にこれらのグループを巻き込むことは、町会として新しい動きにつながっていくように思う。

【採択結果】

合計点 90.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合計		90.9

● 8：ラベンダーロード再生事業／相馬地区小・中学校PTA連絡協議会

※公開プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：10年ほど前に事業を行って、花壇の管理があまりできずに荒れてしまったとのことだが、今回の事業では管理を継続して行うことはできそうか。

A：JA相馬村女性部や老人クラブの方にも事業に参加してもらえるように声掛けをしている。こういった大人の人たち、地域の人たちを巻き込んでいき、来年以降も継続していくと聞いている。

【主な意見】

- ・刈った後のラベンダーの花を再利用して、例えば葉を作って地域の施設に子どもたちが慰問するなど、幅を広げて事業を展開していただきたい。
- ・今回の申請で予算的にウェイトを占めているのは、はさみなどの道具なので、道具がそろえば毎年事業を継続していくことができると思う。
- ・小中学校の子どもたちの、郊外教育のような要素があり、植物が再生していくことを実感できるよい事業だと思う。

【採択結果】

合計点 80.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.7
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合 計		80.9

● 12 : N響メンバーと合同で演奏するチェロアンサンブル

／ひろさきチェロアンサンブル同好会

【質疑応答（抜粋）】

Q：観客と演奏者が近くで演奏を聴くことによって、文化芸術の向上の一助となるということについて、詳しく教えていただきたい。

A：演奏を実際に聴いてもらえればわかるが、本当のプロが間近で演奏するのは、素晴らしいものである。我々では負担しきれない、プロにお願いする部分にかかる費用を協力してもらいたく、多くの人に聴いてもらうためにと思い、思い切って申請した。

Q：同好会以外の市民の巻き込み方や、参加者の固定を避けることに力を入れるとよいのではないかと感じるが、今回1%システムを活用する事業として、事業の公益性をどのように考えているか。

A：これまではあまり経費をかけず、プログラムやチラシは自前で印刷し、限られたところにしか広報できなかった。プロの人が来るということを前面に出して、より広い範囲にチラシを配りたいと考えている。

Q：これまで同好会でチェロの演奏会を行ってきたが、今回の事業で弘前市民に広く演奏会見てもらうことで、こんなことをやってほしいというような市民の思いが相乗効果として出てくるのではないかという狙いがある事業申請と考えてよいか。

A：実際にそのような声が上がってきつつあり、昨年から市民病院でコンサートを行っており、今年の9月にも行う予定である。アマチュアでやっているのも、メンバーの仕事等の兼ね合いはあるが、さまざまな場所でそのようなコンサートができればいいと考えている。

【主な意見】

- ・プロのレベルの高さを多くの人に聴いてもらうことや、多くの人に聴いてほしいと呼びかけて門戸を開くことは、狭義での公益性には入らないかもしれないが、公益性があると捉えてもよいと思う。
- ・この事業自体が、チェリストをつくるための活動ではなく、音や楽曲を聴いてもらう機会を提供する意味合いが強いと思うので、どんどんそのような機会を広げてほしい。
- ・文化振興に関する事業は、需要があるからやればよいというわけではなく、良いものをできるだけ提供する環境を作るといふことだと思う。
- ・この事業は弘前だからこそできる企画であり、今までのネットワークづくりがあってこそ、N響のメンバーも協力してくれるのだと思う。

【採択結果】

合計点 74.5 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		74.5

- 19：ひろさきアフタースクール「地域の力を取り込んだ放課後づくり」プロジェクト  
／あんよ・せらびー共育研究会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業では19回の活動プログラムを開催する予定なのに対して、少ない経費で済んでいるが、この経費で事業を実施できる理由を教えてください。

A：最低限の経費として、「市民先生」に対する謝礼を我々が講師をしたときにもらう金額を目安に設定した。チラシや材料費も最低限で抑えており、スタッフのほか、学生ボラン

ティアに無償で活動してもらっている。

Q：申請事業の一部を岩木地区と相馬地区をモデル地区として、地域を限定して取り組むことで、今までの活動と比べてどのようなことが期待できるか。

A：去年はヒロロスクエア運営協議会の事業として、ヒロロ3階で学校をイメージし毎週水曜日に活動してきた。今年も第1・3週はこれまで通りヒロロで活動するが、第2週目を相馬地区、第4週を岩木地区で事業を行うことにした。小学校や塾から帰ってもまだ家に親がいないから集会所や公民館に顔を出すと、隣近所のおじいちゃん、おばあちゃんや大学生と一緒に勉強してくれたり遊んでくれたりする。このようなことを月1回ずつ実践していれば、そのうち「うちの町会でもできるかもしれない」と思ってくれる町会が出てくるのではないかと思っている。

#### 【主な意見】

- ・団体のねらいは学校を利用して子どもたちの放課後を充実させることだと思う。子どもたちは減ってきており、空き教室は各学校にあるはずなので、学校側が教室を使わせてくれるように、説得力の出る活動をしてほしい。
- ・弘前市または青森県でも、話題となっていることについて勉強し、事業の中に取り込んでいることが素晴らしいと思う。
- ・弘前大学の研究室やボランティアセンターなどの学生と連携して活動しており、学生の活動の場や機会を提供している。また、モデル地区での活動が、町会と学生が交流する場を創造することにもなるので、応援していきたい。
- ・児童館やなかよし会など似たような活動がある中で、子どもたちが生き生きと参加できるような事業になっていくことを期待したい。

#### 【採択結果】

合計点 87.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合 計		87.7

6月21日審査結果 (26事業のうち11事業)

採択とする事業	9事業
不採択とする事業	2事業

# 平成26年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成26年6月22日（土）  
午前9時30分～午後5時10分  
場 所：市役所新館2階 大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、鴻野委員（事業番号18から欠席）、齋藤（秀）委員、清藤委員、齊藤（き）委員（事業番号4から欠席）、西川委員、小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、工藤委員、宮川委員（事業番号17から欠席）、長内委員、小林委員  
※1名欠席  
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 6月20日、21日に引き続き審査

### 《審査内容》

#### ●5：桜庭町会内の危険箇所及び道路舗装整備事業／桜庭町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：事業を完了するまでの工期はどのくらいになる予定か。

A：工事現場の整備をするのに1日かけて、生コンを敷くのに1日かける予定で考えている。

Q：今回整備する危険箇所の近くの法面が少し崩れているとのことだが、今回の事業で整備しないのか。

A：墓地の奥にある法面は、市農村整備課から資材提供を受けて一昨年補強している。もっと経費をかけて整備したいという気持ちもあるが、あまり大々的に整備すると素人では処理できなくなる可能性があるため、法面部分は欠けている部分に生コンを詰め込む応急処置で済ませ、最小限で危険箇所の整備しようということになった。

##### 【主な意見】

- ・本来は行政にお願いをしてやってもらうような事業を、町会の人たちが自ら行うことは、すごく前向きで、応急対応をしながらその情報を行政に戻し、事後対応できるような、住民の力や知恵を出す構図だと思う。
- ・工事箇所が何年かすれば劣化することも考えられるので、業者に頼んだらどのくらいの費用になるか見積もりを取ってみることも検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 88.2 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合 計		88.2

● 13：東目屋地区活性の為の回覧板新聞発行事業／楽しいね東目屋！実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：編集スタッフとして何人活動しているのか。

A：指導員と、実行委員会のメンバー6人が中心だが、大学生が一時的に編集に参加することもあり、入れ替わりながら10人弱で活動している。

地域の方から、コラムを書きたいという声が上がったこともあり、そのようなかたちで住民を巻き込み、住民で作っていく新聞にしたい。

Q：来年度も新聞を発行したいとのことだが、予算を見ると、12月までの6回分で経費を計上しているので、1月から3月はどのように発行するか教えていただきたい。

A：12月以降について具体的に決まっていないが、もちろん続けていきたい。12月になって、地域の人たちがこの新聞を必要だと思ってくれるのであれば、各世帯から少しずつでも負担してもらうような相談ができるのではないかと思う。それが難しいようであれば、寄付金を募ったり、企業からの協賛をもらったりして発行していきたいと思う。

Q：「回覧板新聞」と謳っているが、使っている用紙などは高級なものを使っているように感じた。用紙の質を落としたりカラーを少なくしたりと、もっと安くする工夫はできるか。

A：地域でもさまざまな回覧物があるが、実際に読んでいる人は少ないという実感がある。多くの人に手に取って読んでもらうためには、「新聞」という身近なものでありながら、高級感のある用紙など、ある程度費用をかけることは必要と考えている。無料でできるもの

ではないので、少しずつ安くしていく工夫はしていきたい。

Q：東目屋地区には11の町会があるが、それぞれの町会から新聞に掲載する話題は出てきそうか。

A：それぞれの地域で当たり前だと思っていたことが実はほかの地域に行くと当たり前ではなかったという話題が山ほどあるので、いろんな町会にフォーカスを当てながら記事を作っていきたいと思う。

Q：新聞は、毎戸配布のほかに、どのようなところに置く予定か。また、インターネットでの公開はする予定か。

A：現在は、西・東目屋エリアの公共施設、例えば東目屋ふれあいセンターや児童館などに置いている。インターネットでは公開していない。これから東目屋以外の地域に、地域で新聞を作っている活動を発信する必要はあるが、まずは地域の人に認知され、理解を深めてもらってから外に情報を発信したい。

情報を知りたい場合は、ぜひ東目屋までお越しいただいて、新聞を手にしてほしい。

#### 【主な意見】

- ・創刊準備号を見ると、高齢者にも読みやすいフォントを使うなど、紙面作りに工夫が見られるので、「いつ・もの・こと 弘前版」をそのまま活用するのではなく、東目屋独自のカラーを出していただきたい。
- ・創刊準備号から、紙面作りのためのノウハウがかなり詰まっていることがうかがえる。協賛金を募ったり広告料を入れたり、このクオリティを保つための工夫をすることに力を入れていただきたい。
- ・回覧板とは、町会や行政の情報を住民に与える仕組みとして作られたのだと思うが、近年それらを読む人が減っている中、回覧板をコミュニケーションのツールとして再び活用しようというアイデアが素晴らしいと思う。
- ・東目屋地区だけでなく、他の地域での町会活動や町会の活性化につながる新たな流れを作り出す可能性がある事業である。

#### 【採択結果】

合計点 88.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.3
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合 計		88.2

● 7：ふくろうと共存するりんご生産における農業の新展開／ふくろうの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ふくろうを増やして、りんご畑に棲みついてもらいたいとのことだが、現在りんご畑の周辺にふくろうはいるのか。また、りんご畑のねずみ対策として、ふくろうが棲むことで解決できるか。

A：鳥は寿命が長い生き物なので、今でもりんご畑の周辺の木に棲んでいるはずだが、繁殖する場所がなく、これから減少していくことが予想される。ふくろうでねずみを絶滅させることができるわけではなく、良い生態系のバランスを作ることが事業の目的である。

Q：この事業は実験的要素も含まれている印象を受けたが、ふくろうの巣箱の数（60個）は適切か。

A：りんご畑にふくろうが棲める穴がなくなっているので、代わりにする巣箱を作りたいということで事業を考えた。

ふくろうは子どもを数か月間、周りの林で育てることも考えられるので、周りに林が無いところに巣箱を設置しても入りにくかったりと、60個設置すれば60個すべてに入るわけではない。はじめはふくろうが入る巣箱は数か所で、だんだん利用率が上がるだろうと考えている。

Q：ふくろうが育つためには、りんご畑の周辺にある里山の存在が大事になってくるように考えるが、団体ではどのように考えているか。

A：まさにその通りで、周辺には林が必要である。調査の結果、鳥の住処になる林は点在しているようだが、もう少し林があったほうがよい場所もあった。今後、ふくろうが巣箱に棲みつくようになった場所などを実感したうえで、次の地域づくりにつながっていくの

ではないかと思う。

**【主な意見】**

- ・大学の農業の専門部門と、ふくろうを増やしてきたいという地域が連携して環境を変えていこうという素晴らしいプロジェクトである。
- ・りんごの廃材が相当量出ていると聞いたことがあるので、巣箱を作る材木として、りんごの木を利用することも考えていただきたい。
- ・ネズミ等による被害でりんごの木が枯れているのを見かけたことがある。このような被害に、農業にあまり頼らない対処方法を考えて、地域と大学が連携することは大きな意義があることだと思う。

**【採択結果】**

合計点 80.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		80.0

● 26. ギネス記録も持つ！！津軽の笛が大集合！ 第2回 津軽笛博覧会

／津軽笛地域づくり実行委員会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：昨年度の実績報告で、今後の課題として、振り鉦や祭り囃子の講座などを検討したいとあったが、今年の事業ではこれらの課題にどのように対処していく予定か。

A：手振り鉦等について議題に上がったが、今年もベーシックな囃子講座をきちんと行いたいということになった。将来的には手振り鉦等の講座も行いたい。

**【主な意見】**

- ・地域にある宝を一度自分たちで整理して、市民さらには県外に発信していくことを自発的に行っている。市民が弘前の魅力の一つを再認識し、発信し、それが文化として引き継がれていくことは、1%システムの趣旨にも合致している。
- ・囃子を器用に吹きこなせるような人が増えて、ことあるごとに県外から来た観光客等にどんどんアピールしてもらえれば、大変大きな効果があると思うので、講習会を含め継続していただきたい。

【採択結果】

合計点 89.3 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.2
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		89.3

● 6：岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年度は、何度清掃活動をして、同じ場所に廃棄物が投棄されているという話があったが、その後の状況はどのようになっているか。

A：県の不法投棄監視員と接触している。全体的に廃棄物は減りつつあるが、まだまだ不法投棄はある。さまざまな組織が一斉に山に入って廃棄物の処理をしないと、投棄するような人たちの琴線に触れられないのではないかと思います。

Q：ごみを減らしていけるような糸口は、「岩木山のことで話し合おう会」で探っていけそうか。

A：継続的に話し合っていくことになっている。問題点をどんどん出していききたい。さまざまな組織が合同でごみ問題に向かっているようになればうれしい。また、そうならない限り、ごみなどの問題はなくなるのではないかと思います。

Q：ごみをみんなで拾う活動だけでなく、次の展開として総合的に手を打つ必要があるのではないかと考えるが、その点についてどのように考えているか。

A：ごみだけの問題ではなく、本質的なことを出していないと問題は解決できない。プレゼンの場で毎年「ごみが片付いた」成果について話すことができないことが一番辛い。先日開催した「岩木山のことで話し合おう会」では、本気で活動している人が集まり、市民にどのように訴えかけていくべきかなどを話し合った。このような集まりをどのように展開していくかに、今後についてのヒントがあるのではないかと思う。

#### 【主な意見】

- ・ごみを拾う活動を続けながら、一方でごみを捨てない、環境を守る啓発活動をどんどん行っていただきたい。
- ・弘前はごみの量が多く焼却処分料の行政負担が高いという一面もある。ごみの問題は市民みんなが取り組まなければならない問題なので、この事業を応援したい。

#### 【採択結果】

合計点 92.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	10.0
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		92.5

#### ● 18：石渡町会ふれあいの集いと自主防災訓練／石渡町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：弘前市は自主防災組織の結成率が低いですが、石渡町会の自主防災組織について教えていただきたい。

A：東日本大震災がきっかけで、弘前市でも地域で自主防災組織を作っていこうという話

があったので、石渡町会でも体制や住民の気持ちもあったので自主防災組織を結成することになった。現在藤代地区では23町会中3町会が自主防災組織を作っている。

7年前から地域住民がコミュニケーションを取る場としてふれあいの集いを行ってきたので、この集いを利用し、防災訓練を行えば何かあった時に役立つのではないかと考え、これまで2回行っている。もっと地域の人に強い意識を持ってもらうための広報活動やパンフレット作成のために1%システムに申請した。

Q：自力で避難することが困難な人たちに対する対応について、今回申請された事業に盛り込まれているか。

A：民生委員と社協の理事が自主防災組織内にいるので、1人暮らしの避難が困難な人に対してどうするかと話し合っている。事業の中ではないが、対応するために町会で担架など買い揃えないといけないのではないかと話している。

また、昨年9月の大雨の際、町会は特に被害はなかったが、自主防災組織は必要だと感じた。これから地域で訓練を重ねることで訓練したことが身につくと思うし、他の町会にも勧めたいと思い、防災組織結成のための講師も行っている。

#### 【主な意見】

- ・単独で自主防災組織の訓練を行うことは難しいと思うので、もともと自主財源で行ってきた地域ぐるみの「ふれあいの集い」を活用して訓練を行う発想は非常に良いと思う。
- ・防災のためのハンドブックを作る予定だが、「絆」という言葉が使われていることから、実はこのハンドブックは防災のためだけでなく、町会の住民一人ひとりがしっかりつながるようにという意図が込められているように感じた。
- ・作成するハンドブックを活用した防災活動についても計画されており、自主防災訓練の視点から地域の力を向上していこうという事業となっているので、非常に応援したい。

#### 【採択結果】

合計点 94.2点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	9.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合 計		94.2

● 25 : Nature 今こそ自然に還るとき／弘前学生BBS会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : キャンプの中で防災教育を行う予定だが、どのようなことを行う予定か詳しく教えていただきたい。

A : 主に川遊びの中で行う予定である。例えば、川に溺れてしまったときに、何人もの人が手をつないでチェーンのようになり、1人を助けるという救出方法などを計画している。指導者はまだ検討中だが、学生ではなく大人の人に依頼する。

Q : 学生だからこそできるという、この活動に対する思いを教えてください。

A : 昨年度、「子ども未来サポート事業」を青森県で行うことになり、実施したキャンプで、さまざまな人が地域や子どもたちのために活動していることを知り、感動したことをより多くの人に知ってもらいたいと思うようになった。また、参加した子どもたちから「お兄さんやお姉さんたちのようになりたい」と言われたことや、その場でできたつながりのことを考えると、このような場を残し、活動を継続することが昨年度のキャンプを経験した我々にできることなのではないかと思い、今年もこのキャンプを行うために申請した。

【主な意見】

- ・まちづくりはひとつづくりなので、この事業を通して次の世代のリーダーが育っていく場になるのであれば応援したい。
- ・子どもたちのキャンプのプログラムから効果が見いだせず、団体の継続や学生の人材育成のために費用が使われるような印象を受けた。
- ・団体で昨年度に行った事業と似ている部分があるが、学生が企画し、申請や運営すべて行ってまた今年もキャンプをやろうとする思いが一から始まっている点は、昨年のもの

とは考え方や思いが違うのではないかと感じる。

- ・団体で昨年度行った事業を土台にして申請しているので、費用を削減するために食事をすべて初めから作るのではなく、防災用のレトルトや缶詰を試しに食べてみたり、泊まる場所をテントにしてみたり、さまざまな工夫をしてみても良いと思う。

**【採択結果】**

合計点 63.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択 (申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合 計		63.5

● 24：第12回ホームムービーの日／HMD弘前

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q：ホームムービーの日をきっかけに、ネットワークや協力者が増えているかどうかを教えてください。

A：協力者は年々増えており、はじめは客として来ていた人がフィルムや写真を提供してくれるだけでなく、宣伝協力してくれたこともあった。新聞等のメディアや広報に掲載されたことがきっかけで、フィルムの提供などをしてくれた人たちもいた。

Q：昨年の上映会等への参加者数について、どのように考えているか。

A：子ども向けの野外上映会（8月開催）のチラシを小学校に配り、映像を楽しんでもらい、ホームムービーの日にも来てもらえたらと思ったが、小学校にチラシを配っただけでは効果が薄かった。しかし、ホームムービーの宣伝のためにプロにお願いしてチラシを作ったところ評判も良く、ホームムービーの日への参加者は増加した。

**【主な意見】**

- ・このような活動の効果は、上映会等への参加者数ではなく、一生懸命活動している団体がどれだけネットワークを構築できているかだと思う。
- ・個人の資源だった家庭用フィルムが地域の資源になることはとても素敵なことだと思う。
- ・今後行政で映像のアーカイブ化が進められた時に、どのような8ミリフィルムがどこにあるといった情報を構築してくれる団体があると、何か事業を始めるときに動きやすいので、このような活動は継続していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 79.2 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.3
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		79.2

● 17：山岸堰改良事業／国吉町会

**【質疑応答（抜粋）】**

特になし。

**【主な意見】**

- ・今年の工事箇所は、今までよりも危険な箇所でもあるようなので、安全面について十分配慮していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 94.6 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	10.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	10.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.6
合 計		94.6

● 4：城西学区安全で安心な「地域安全マップ」作製事業／

城西学区子ども安全サポート推進事業本部

【質疑応答（抜粋）】

Q：安全マップの作製マニュアルを毎年参加児童全員に配布せずに、使いまわしてもよいのではないかと。

A：マニュアルは、子どもたちが事前学習をするための学習資料で、ファシリテーターがページにあわせて「危険な場所や安全な場所」について、しっかり理解してもらえるように説明を加えている。子どもたちの保護者にも、「危険な場所や安全な場所」をについて理解していただく必要もある。また、学校では安全教育の教材として、年間を通して活用している。

Q：子どもの防犯をテーマにずっと活動されているが、このような事業が弘前全体に広がる可能性についてどのように考えているか。

A：県の安全安心まちづくり条例の中で、90%の学校で安全マップを作っていこうという指標が定められ、市内の学校でも、ある程度作製されている。この事業の本来の目的は、子どもたちが不審者に襲われそうな場所や、危険な場所・安全な場所について理解を深め、大切な自分を守り、犯罪に巻き込まれないようにする力をつけることである。市子育て支援課でも3年間事業を行い、指導者も育ってきている。子どもたちを地域の宝として育むため、今後も広く事業を実施したいと考えている。そのためには、学校と地域の大人たちの支援・協力が必要となるので、地元の人たちが協力しやすい環境づくりにも努めていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・保護者が普段何気なく行っていることが、子どもたちを危険にさらしている可能性があることを保護者が自覚することが必要だとマニュアルを読んで感じた。子どもの視点だけでなく、大人も地域の危険箇所を繰り返し確認しなければならないように思う。
- ・これまで行ってきたことが弘前の中で一つ一つ積み重なってきているように感じるので、だんだん発信していく側としての新たな業務が企画の中に出てくると面白いのかなと思う。

【採択結果】

合計点 81.8 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		81.8

● 9：2014岩木町絆フェスティバル事業／岳陽ふるさと創生会

【質疑応答（抜粋）】

Q：お盆の時にANEKKO駐車場を会場として事業を行っており、回数を重ねるうちに、この会場では参加者を収容できなくなるのではないかと考えているが、この場所を岩木町の交流拠点としての将来性をどのように考えているか。

A：近年、入りたくても入れないという参加者が見受けられるようになっている。会場を移すことに関しては、駐車場との兼ね合いや岳陽学区へのこだわりもあり、今の場所から移りたくても移れないのが現状である。

Q：地域の人口が減少している中、事業の改善点としてお見合い大作戦を行うことはとてもいいことだと思うので、このお見合いについて教えていただきたい。

A：さまざまな地区でこのようなお見合いイベントが実施されていることを耳にするので、

我々は本気で、結婚したくてもできないという人たちの出会いの場を作ってあげたいということで企画している。

Q：昨年実施したカラオケ大会がマンネリ化していると実績報告書にあったが、改善点はあるか。

A：実施方法は同じだが、昨年一組だけ若い女性が参加し、大変好評だった。毎年演歌が主なので、歌謡曲や流行歌の部門を作るなどして若い人の参加を図りたい。

**【主な意見】**

- ・事業に岳陽地区一帯が交流する機能が出てきているので、この祭りの在り方など、次の展開への動きが出てきてほしい。
- ・事業の実施日が、帰省者の多いお盆ということで、地元には遊んだり楽しむ場所が少ないと思っているかもしれない帰省者たちに、お見合いイベントに参加して楽しむきっかけがあることに注目している。

**【採択結果】**

合計点 74.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		74.5

6月22日審査結果（26事業のうち11事業）

採択とする事業	11事業
不採択とする事業	0事業

2次募集事業の審査結果（26事業）6月20日～22日審査合計

採択とする事業	24事業
不採択とする事業	2事業